

五ヶ所城(愛州城)(県史跡)(南伊勢町五ヶ所浦字城山)(愛洲の里)

南北朝から戦国時代にかけて活躍した伊勢の豪族、愛洲氏の居城で、竹林に囲まれた小高い丘の上にあります。三重県の史跡にも指定されています。中世の山城なので、堀や居館の跡はありますが石垣はありません。城址の近くには「愛洲一族の塔頭」という愛洲一族の墓が並び、戦国の哀愁が漂っています。

また、ここは、剣道の影流の祖の誕生地でもあります。愛洲一族の移香斎久忠が世に広めた愛洲影流が、柳生新陰流やタイ拾流の源となりました。毎年8月、お盆後の日曜日には剣祖移香斎を讃える為に、五ヶ所城址で「剣祖祭」がおこなわれ、全国各地各派武術者による武芸奉納が行われます。

南伊勢町サイトによる

660余年の昔、南北朝時代といわれる時代がしばらくつづきました。

五ヶ所城は、南朝の南朝の忠臣愛洲公一族の城で、愛洲城ともいわれ、土地の者は愛洲さんと呼んで、大切にしてきました。

愛洲氏は古くからここに城をかまえ、南北朝の頃には、国司北畠氏と共に、伊勢地方に勢力を張り、熊野水軍と結んで、田丸や一之瀬に進出、大いに活躍しました。功により伊勢の守護職となり所領を受けて、神宮のうしろだてになりました。

一族は長くこの地を本拠地として、威を振りいしましたが、天正四年(1576)北畠氏＜織田信雄＞の軍に攻められて滅亡しました。

現在城址と丘の南面の居館跡や塔頭(墓所)が残っております。中世の山城をしのぶ遺構として貴重なもので、昭和十三年県史跡の指定を受けました。

愛洲移香斎久忠(1452～1528)は、530余年前、この地に生まれました。

成人として九州鶴戸の岩屋にこもり、剣の奥義悟って、愛洲陰流をひらき、天下にひろめました。日向の守愛洲太郎左衛門久忠と名乗り、移香斎と号して所領を受けました。

愛洲陰流は上泉伊勢守信綱により、新陰流となり、柳生石舟斎の柳生新陰流をはじめ二百余流の源流となり、移香斎は剣祖としてあがられています。

現地看板による



五ヶ所城址

